



SHIRANE



Homepage

発行/社会福祉法人白根学園 発行責任者/三木 健太
住所/横浜市旭区白根7-10-6 TEL.045-951-2669 FAX.045-951-7773



特集

TOPIC 01
理事長挨拶

TOPIC 02
街角紹介

TOPIC 03
事業所紹介(社会就労センターしらね)



目次

- ・ 理事長挨拶②
- ・ 研修報告③
- ・ 行事(和パーティー/
ぶどうの実 納め会)④
- ・ 街角紹介⑤
- ・ お知らせコーナー/職員エッセイ⑥
- ・ 事業所紹介⑦
- ・ まちがい探し/編集後記⑧

「考えて。」

2025年4月

理事長：三木健太

新年度が始まり、春の温かな陽気と共に新たに加わった職員の皆さん、おめでとうございます。私たち白根学園は1960年に創立されて以来、数えきれないほどの出来事を経験し、支え合いながらここまで歩んできました。「知識より、信仰より、愛をもって第一となす」という理念は、今も変わらず学園の根底にあります。

しかし、時代は常に変わり続けます。コロナ禍を乗り越え、世界的な経済の不安定さや気候変動といった問題が深刻化する中で、私たちの役割はますます重要になっています。これからも変化は続き、支援の形や私たちの役割も時折見直さなければなりません。その中で、私たちが変わらず大切にしなければならないものがあります。それは、「考え続けること」です。

考え続ける力、それは私たちの支援の基盤です。

日々の業務の中で、どんな些細なことであっても「考える」ことは必須です。利用者さんがどんな時に困っているのか、その気持ちをどれだけ理解し、どうしたら一番良い方法で寄り添えるのか。時には簡単に答えが出ない問題もあります。でも、その答えを求めて、私たちは考え続けなければなりません。たとえその答えがすぐに見つからなくても、考え続けることで、きっとその道は開けてきます。

考え続けることは、決して一度きりの行動ではありません。

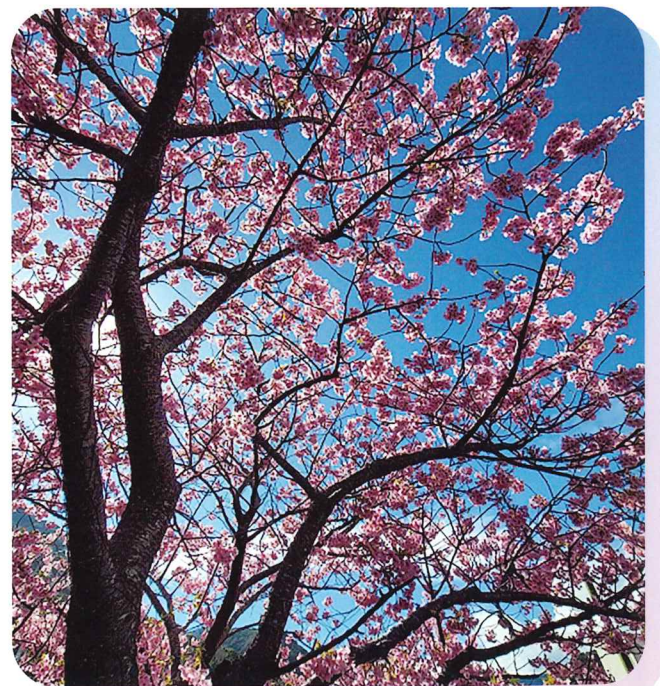
その力は、毎日少しずつ積み重なり、形を作ります。どんな変化にも対応し、学び続け、

柔軟に進化していくためには、日々の積み重ねが不可欠です。私たちが「考える」ことで、利用者さんのための支援はより良いものになり、学園全体の未来がより明るいものへと繋がっていきます。

だからこそ、私は職員の皆さんに「考えて。」と伝えたいのです。

毎日の支援の中で、今ここにいる利用者さんのために、また未来の支援の形を見据えて、考え続けてください。目の前の課題を解決するために、心から寄り添うために、どんな方法が一番適切なのかをじっくりと考え続ける力を、共に育てていきましょう。

私たちは今後も、一步一步「考え続ける力」で支援を積み重ね、学園をより良い場所にしていきます。皆さんと共に、共に考えながら、より深く、より広い支援を提供していくことを楽しみにしています。



研修報告

外部研修「ストレスマネジメント研修」

ぶどうの実：古平 希

本研修においてストレスの心理学的な理解と対処について、グループワークを交えながら学びました。

まず、ストレスそのものを知る為に、ストレスが生じるのはどのような時か、ストレスが生じる事で自分や他者はどのような状態になりやすいのか、その傾向などを学びました。

ストレスはネガティブなイメージを持っていましたが、適度なストレスとうまく付き合う事で自身のパフォーマンスが上昇するという話もあり、ストレスに対する見方も大きく変わりました。

研修ではストレスに対しての向き合い方として、対処方法の数を増やす事が有効であることや、ストレスの要因が環境からなのか、自分の思い込みからくる個人的なものなのかを区別する事など対処の実践的な方法を学びました。

価値観の違いという事はストレスの一つとなります。価値観は人それぞれ違いがありますが、他者の考えも受け入れ、ストレスと向き合っていきたいと思います。

内部研修「意思決定支援」

希望：久保 知誠

2024年度から新たな取り組みとして意思決定支援を実施しています。

希望では、A.HさんとS.Kさんの2名を対象に選出し、ご本人に同席していただきました。そして意思決定支援専門アドバイザーからの提案で、過去に通っていた支援学校教諭、過去に在籍していた児童施設職員、ご家族への聴き取りを行いました。その方の習慣や行動の経緯がわかり、今後の支援につながるヒントを多く得ることが出来ました。



A.Hさんは、人と関わるのが大好きですが、一方で騒がしいのは苦手な方です。ご本人の理解者を増やして生活の幅を広げることを目標に、新たな通所先の見学や体験利用を実施したところ、ご本人の目標である理解者を増やす事ができました。



S.Kさんは、課題となる行動があります。ご本人の課題行動に着目するよりも、他に興味を示すものや強みに着目して課題行動の消失に取り組んでいます。例えば、ペットボトルのラベルを集めています。それを「個性的で面白い」という事から、アート活動としての取り組みを始めました。会議では課題行動を「注目」「要求」「逃避」「感覚」4つの機能に分類し行動分析を実施する事で、利用者さんの課題行動に対して、職員の理解が深まり、職員の見方に変化が生まれました。

お二人の支援は続きます。今後もより良い支援を心がけていきたいと思えます。

● なごみ 和パーティー

地域生活センター和：山崎 亜美

3月8日(土)に2024年度の納め会として、地域生活センター和の最大イベント、和パーティーが開催されました。今年の会場は、新横浜にある「Socia21」。開催日が近づくにつれ「何着ていこうかな」「誰と一緒に座るのかな」「どんなご飯が出るのかな」と皆さん心待ちにしていました。当日はあいくの空模様ではありましたが、皆さんドレスやスーツなど、素敵な装いで集まることが出来ました。

毎年、パーティーの司会、進行、はじめの言葉、乾杯、おわりの言葉などを利用者さんが行っています。今年も何名かの利用者さんが張り切って役割をこなしてくれました。皆さんが楽しみにしていた料理は、和洋折衷のコース料理でどれもとても美味しく、利用者さんからも大好評でした。

今年の和パーティーでは、長くお仕事に勤めている利用者さんへの表彰、還暦、長寿のお祝い、和に入職した新しい職員の紹介や4月から異動になる職員の発表もあり涙を流される利用者さんも見られました。その後はスライドショーで今年度を振り返り、いつもと一味違った特別な雰囲気の中、笑いあり涙ありの素敵な時間を過ごす事が出来ました。



● ぶどうの実 納め会

ぶどうの実：渡辺 由以

ぶどうの実では3月26日(水)に「納め会」を行いました。毎年年度末に、職員、利用者さん全員で1年間を労う事を目的として行っています。その中で、高校を卒業する方、社会人になる方、異動、退職する職員とのお別れの場ともなっています。ぶどうの実から離れた後に、色々な悩みを抱えることがあるかもしれません。そういった時に、ぶどうの実に「相談をしよう」、「遊びに行こう」と思える様な大切な場所であって欲しいと思う限りです。



今回の納め会は「レンブラントホテル海老名」で行いました。buffet形式の食事に目を輝かせ、何度もおかわりをしている利用者さんや、一目散にデザートを取りに行く利用者さんなど楽しみ方は様々でしたが、皆さん自分なりにとても喜んでいる様子でした。納め会では、異動者、退職者、卒業する利用者さんの紹介を行い、皆さんからお言葉をいただきました。その中でも、卒業する方から「仕事をしてお給料をもらったら、ぶどうの実のみんなにコーヒーをご馳走する！」と話してくれたことがとても印象的でした。卒業生の中には、すでにグループホームへの引っ越しを済ませ、新たな道を歩み始めている方もいます。皆さん、これからの生活に心躍らせている様子が伺えました。

新たな生活に対する嬉しさや別れへの寂しさがあった納め会でしたが、笑顔で終えることが出来ました。これからも利用者さんが笑顔で卒業できるように支援していきたいと思えます。

街角紹介

紹介者

ホーム里：今井賢次郎

～グループホームと地域のつながりについて～

今回、白根学園ホーム里(障害者福祉サービスのグループホーム)が利用している近隣の医療機関や地域ケアプラザをご紹介します。利用者さんの健康や生活を支えてくださる頼もしい協力機関です。利用者さんにとっては、とても貴重な存在であり、日々の生活に欠かせないつながりとなっています。

医療法人社団 ゆうじんかい 悠仁会 ごてんやま 御殿山クリニック横浜

住所：神奈川県横浜市旭区下川井町347-1 ☎045-951-9001



白根学園ホーム里は、御殿山クリニック横浜(以下、御殿山クリニック)の訪問診療を利用しています。訪問診療は、利用者さん1人に対して、毎月2回程の処方薬、塗布薬の相談機会があります。訪問場所は利用者さんが住み慣れた家で行い、同じ医師に直接肌の状況や表情の変化等を含め、細かく健康状態を診てもらっています。

障害を持つ方が通院する場合、緊張して落ち着かない状態になる事があります。訪問診療では慣れた場所で診療を受けられるからこそ、利用者さん、支援者も安心した気持ちで診療を受けられます。更に通院時の感染リスク軽減や待ち時間が少ない事は、より正確な診察につながります。

御殿山クリニックは訪問診療だけでなく、オンコール体制も利用できます。利用者さんが発熱した際、夜間でも電話診療や救急車要請の相談に応じるサービスがあり、緊急事態でも安心して対応できるようになりました。その後、薬処方や主治医が往診に来て下さる事もあります。毎月の診療は、病気の早期発見、早期治療につながり、御殿山クリニックの訪問診療は利用者さんにとって最適な医療環境となっています。

カワセ薬局 ひかりが丘店

住所：神奈川県横浜市旭区上白根町891 西ひかりが丘団地18-3-102 ☎045-952-3663



カワセ薬局ひかりが丘店は、ひかりが丘団地商店街の中心にあり近隣の方が多く利用しています。処方による服薬相談に限らず、健康相談、栄養相談にも応じていて、お店には塗り絵等の準備もあり、高齢者からお子様まで安心して入れる調剤薬局です。

白根学園ホーム里の利用者さんも薬の処方でも利用しており、薬袋への日付や名前などの記載、複数ある錠剤を一つにまとめて頂いています。それにより利用者さんの安全な服薬につながっています。その他にも保険証の有効期限切れのご案内、残薬管理、副作用等のアフターフォローもあります。FAXで届いた処方箋の薬もすぐに対応、仮に薬の在庫がなかった場合、早急に届くように手配、もしくは代用できる薬がないか医師に確認してくれた事もあります。お客様の事を第一に考えて下さる薬局さんです。

なお、現在インターネットでの処方箋受付もあり、待ち時間もなく受け取り可能となっています。皆さんもぜひご利用してみたいかどうか。

横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ

住所：〒241-0001 神奈川県横浜市旭区上白根町807-2 ☎045-953-6890



横浜市ひかりが丘地域ケアプラザは、高齢者、子ども、障害のある人など誰もが地域で安心して暮らせるよう、身近な福祉・保健の拠点としてさまざまな取り組みを行っている施設となります。

デイサービスでは、地域の方を受け入れ、一人一人に合わせた個別ケアをしてくれています。利用している方からは、「看護師4名もいて、医療面で安心する」、「お風呂が大きくて気持ちいい」という声が聞かれています。お食事メニューが分かれており、当日の気分に合わせてお肉料理やお魚料理等を選べる事も魅力の一つです。

ひかりが丘地域に密着した取り組みで、販売会や健康フェア等も開催しています。白根学園しらねの里・げんき(生活介護事業所)も、イベントに出店し、利用者さんが作っている刺繍や小物の販売、交流会では楽しく踊りを披露し、地域の方と交流する機会を設けて頂きました。広報誌「ひかりが丘便り」の月間予定は、毎月イベントが盛り沢山です。ご興味のある方は、ホームページ等でお知らせしていますので、ぜひご確認ください。

お知らせコーナー

正規職員・嘱託職員募集中！

白根学園では、利用者さんの生活に関わるお仕事をしていただける方を募集しています。スキル・知識・資格の有無は問いません。少しでも関心をお持ちでしたら、是非ご応募ください。

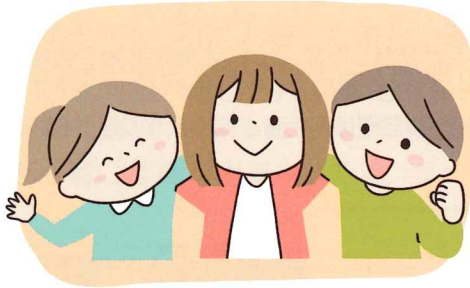
正規職員 入所施設・生活介護事業所・グループホームの利用者の生活に関わる全般業務

嘱託職員 入所施設・生活介護事業所・グループホームの生活サポート・送迎・給食・世話人など
(曜日・時間帯は応相談)

[お問合せ先]

社会福祉法人白根学園 法人本部採用担当 小林・石川
Tel:045-951-2669

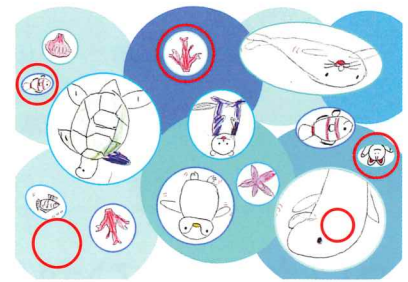
ホームページの求人情報からも
ご応募いただけます。
<https://www.shirane.or.jp/recruit>



8P

まちがい探し
の答え

※逆さになっています。



職員エッセイ

「チャンスの神様」

ホーム歩：中村 仁

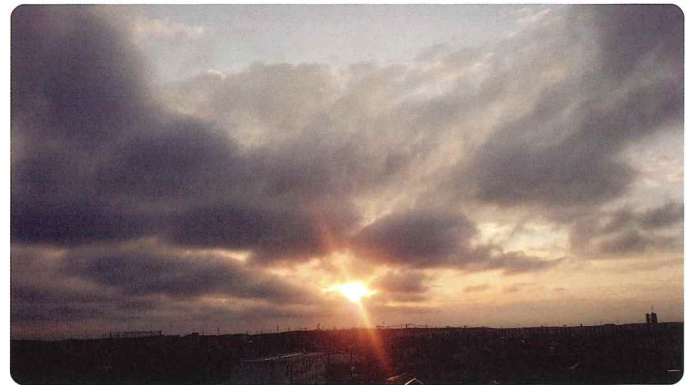
あなたはチャンスが目の前にあったらそれを掴みますか？それとも躊躇しますか？

ギリシャ神話にカイロスという神がいます。このカイロスという神様は後頭部がつるつるで前髪が長い男性の神様です。別名「チャンスの神様」。この神様

は自分がチャンスと思った時に走ってくる神様なのですが、カイロスは、後ろから抱き着いたり、首を掴んだりしても捕まえられません。カイロスを捕まえたいならば通った瞬間に前髪を捕まえるしかないのです。

皆さんはあの時こうすればよかった。もう一つの道を選べばよかったと思う事はありますか？それはチャンスの神様が通り過ぎてしまっただけで捕まえられなかったから後悔してるのかもしれませんがね。ただ、チャンスというのはきつと準備をしている者の前にしか現れないのではないかと思います。チャンスをもにするために努力を重ねているからこそカイロスが目の前を通り過ぎるのではないのでしょうか。

毎日努力をすることできっとあなたの前にもチャンスの神様が現れます。そしてあなたの前をチャンスの神様が通ると思ったら、その時は迷わず前髪を掴んでください。



障害福祉サービス事業所

社会就労センターしらね

社会就労センターしらね：菊地 真央

社会就労センターしらねは生活介護事業所として現在20代～70代の幅広い年齢層の利用者さんがご自宅やグループホームから通われ元気にお仕事されています。

もともと「就労」と名の付くように、2018年までは就労継続支援B型と生活介護の多機能型事業所として活動していました。その名残から、今でも「働く生活介護」として、皆さんが働く意欲、働く喜びを感じられるように、様々な作業を提供しています。



作業は、大きく分けて受注作業と創作活動に分かれています。その人の特性、年齢、健康面などに合わせた作業や活動への参加ができるように、一人ひとりに合わせた作業を提供しています。

クリーニング作業はクリーニング工場から受注してタオルの洗濯、検品、たたみ作業を行っています。細かな汚れを見つけるのが得意な人は検品で汚れがないかをチェックし、力仕事の得意な人は納品・回収に参加して車への積み下ろしをしています。

ボールペン組み立ての受注作業では、作業内容は多種多様で、工程により細かい作業や力加減の難しいものなどもあります。こちらも皆さんの特性に合わせて作業を提供するとともに、「やりたい」という気持ちを大事にしながら練習を重ねて徐々にできることが増える楽しみを感じられるように支援しています。受注作業は納品期日が決まっており、それに合わせて作業を進めていくため、そのときの受注量によって人手の確保が必要になるものもあります。皆さん決まった作業場の所属はあるものの、それぞれの作業場を行き来し様々な作業に挑戦することもできます。

旭区から受注している公園清掃も皆さん積極的に参加している作業の一つです。二俣川こども自然公園、東希望が丘公園のゴミ拾いや落ち葉掃きを行っています。特に二俣川こども自然公園は大きな公園のため、毎回2時間ほどかけてゴミ拾いをしています。夏の暑い日や冬の寒い日、時には雨のなかレインコートを着て作業することもあります。みなさん頑張って作業しています。

創作活動では、刺しゅう作業をメインに製品づくりをしています。皆さんが刺しゅうしたものをトートバックや巾着、ティッシュケースなどの製品にし、病院の売店に卸す事や白根学園の夏まつりや感謝祭で販売しています。利用者さんも店頭で立ち販売にも携わっています。

利用者さんの自治活動「たんぽぽ会」の活動が活発であるのも社会就労センターしらねの特徴です。利用者さんが主体となり、選挙によって会長・副会長はじめ様々な役員を決めています。季節行事から誕生日会の内容、自治会費の使い道などを役員会で話し合ったうえで決めていきます。利用者さんが自分たちでできる限り「選ぶ」ことを大切にしています。



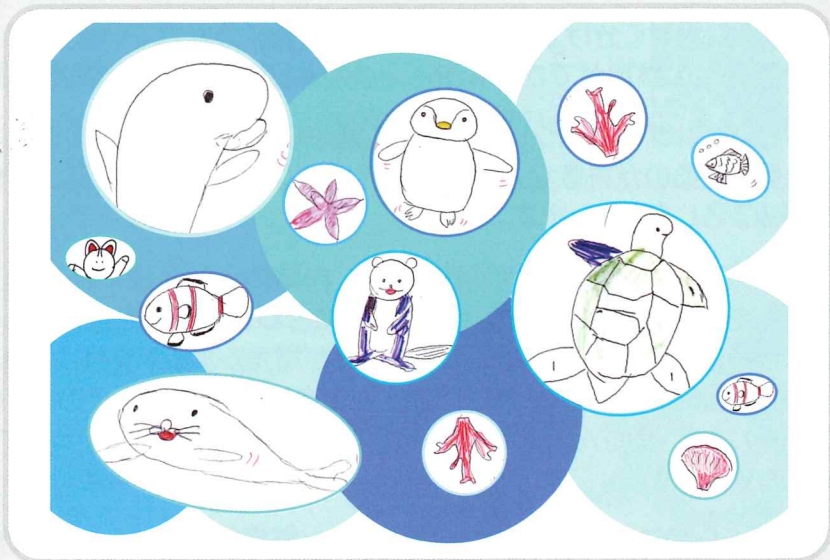
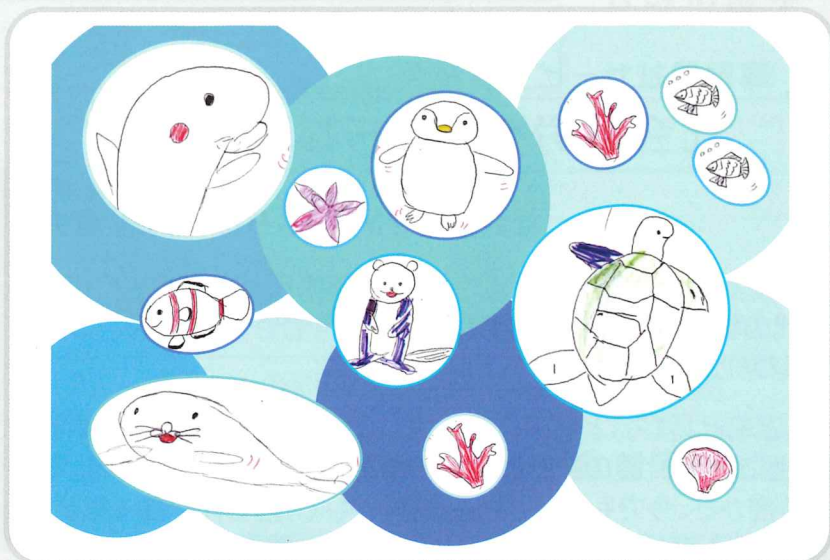
普段は黙々と作業を進めることの多い皆さんですが、休憩時間には和気あいあいと過ごされています。季節行事もたくさんあり、夏にはアイスクリームパーティー、秋には運動会やハロウィン等の行事に皆さん楽しく参加されています。

このように社会就労センターしらねでは様々な活動を通じて地域社会と連携しながら利用者さん一人ひとりの日々の生活が豊かになるよう支援しています。今後も皆さんが日々笑顔で過ごせる社会就労センターしらねでありたいと思います。

まちがい探し

この上下の絵の違いがわかるかな？
白根学園の利用者さんが作った
まちがい探しです。
5つの間違いがあるよ。
よく見ないとわからないから
頑張って見つけてみよう。
答えは6ページにあるよ。

作：麦の丘
佐藤 由香さん



編集後記

風の丘：遠藤 綾子

新年度を迎え、配置転換や転職などで、生活環境が大きく変わった方もいると思います。新しい環境に慣れるまでは、誰しもが多かれ少なかれストレスを感じ、いつも以上に頑張ってしまうことがあるのではないのでしょうか。私もその一人で、ついつい完璧を求めて頑張りすぎてしまうのですが、年齢を重ねるごとに、若いころのように無理がきかなくなっていることを痛感しています。

そこで、これからは少し考え方を变えて、『頑張りすぎずに、でも着実に頑張る！』をモットーに、肩の力を適度に抜き、いつでも楽しむ気持ちを大切にしていきたいと思っています。焦りを感じたときには、深呼吸をして心を落ち着かせ、目の前のことに集中する。そして、小さなことでも良いので、毎日の中での楽しみを見つけ、笑顔で過ごすことを心がけたいです。

時には立ち止まって、自分をいたわる時間も大切です。新しい環境では、期待と不安が入り混じりますが、焦らず一歩ずつ進んでいきましょう。皆さんも、自分のペースで、充実した毎日を送ってください。

